

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームを開設する前に施設長が理念を作成した。「お話いっぱい 笑顔がいっぱい 花がいっぱい だから幸せがいっぱい」という理念の中には、入居者、家族の方に、たくさんのお話をさせていただき、スタッフはたくさんのお話の中から入居者の笑顔を引き出し(できることを探し、支援する)、ホームは、入居者の方々が地域の中で安心して生活を継続できるよう環境を整えるという思いがこめられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の中で、施設長が理念に関する話をおこなっている。現場でおこなっていることが理念に結びついているのか、方向性が間違っていないのかを職員は再確認している。また、日々の現場の中でも、言葉の使い方、態度などを管理者が中心になり注意をおこなうことを続ける中で、職員自らも、自分の言動に気づけるようになり、理念の共有、実践が全員でできるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、地域の学園の運動会の見学などに参加している。学園からは招待状の葉書をいただき、ホーム用のテントも準備してくれている。またホーム前が地域の学校の子供たちの通学路になっているため、「子供110番」の役割をしますよと、学校の先生にも話している。地域の方への挨拶、会話も引き続きおこなっており、地域の方のホームへの理解は深まってきている。	○	運営推進会議の中でも、今後、ホームが、より自治会との関わりが持てるよう伝えている。災害時の避難場所としても、活用いただくよう伝えており、今後、さらに地域の中でのホームの役割を作っていく取り組みを続けていきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から職員に、自己評価、外部評価の意義を口頭で説明した。日頃の状況を振り返りながら、運営者、管理者で自己評価を行なった。また、昨年度の外部評価後、改善策を検討し改善計画書を作成した。運営者、管理者が中心になっておこない、全職員が参加することはできなかったが、改善の実施のプロセスでは、職員全員に説明した。特に、介護計画作成に関する項目の改善策を職員にも伝え、各職員が、一連の介護計画作成のプロセスに関わるようになった。	○	来年度は、時間的なゆとりを作り、職員全員で、自己評価や対応策の検討をしていきたいと考えている。職員全員が参加することで、さらに日々のケアを振り返る機会になっていくことを期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のときに、ホーム内を見学していただいた。ご利用者の状況や日々の暮らしぶりなどを報告し、参加者からのご意見もいただいている。次回の議題もあらかじめ報告している。民生児童委員の方より、「地域の保育園、幼稚園の行事があるときに参加してみたいかがであろうか」など、ホームにとって前向きな意見もいただき、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームを開設する前は、施設長などを中心に頻回に市役所に相談に伺っていた。開設後も、必要時は電話などで相談をし、親切丁寧に回答をしてもらっているが、市役所への訪問は少ない。	○	今後は、管理者の方でも市役所への訪問を増やし、より良い関係を作っていきたいと考えている。今後、よりホームのことを市役所の方に理解していただき、一緒に課題解決していける取り組みができていくことを期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族は、「健康面、病気の進み具合、暮らしぶりの中で他の方とうまくいっているか」などを特に気にかけているようで、職員は、なるべく、入居者のプラス面を先に報告し安心していただくようになっている。面会時と合わせて、電話での報告や写真を見ていただき個別の報告をしている。	○	「家族の方は遠慮をされているかもしれないので、もっと、ざっくばらんにお話を聞いていきたい」と施設長、次長、管理者は考えている。報告の仕方も、体の状況と認知の状況などを、なるべくわかりやすく個別に報告しているが、今後は、他の事業所と合同で通信を作っていく予定にしている。通信は、記録(思い出)としても残るものなので、家族の方々への発行がスタートできることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームを来訪時、なるべく施設長、次長、管理者、職員ともに、家族に声かけし、繰り返し要望を言っただけのよう働きかけているが、もっと家族に本音を話していただけるような場面作りが必要であると考えている。	○	家族が来訪された時の場面を大切にしてい、「お世話になっています」という言葉の裏側の気持ちを、もっと表現いただけるよう、職員全員がゆとりを作り、ゆつくりと会話できる雰囲気を作っていきたいと考えている。ホーム側の思いが、家族に伝わり、お互いのコミュニケーションがより深まっていくことを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である施設長は、職員が交代することで、入居者へのダメージがあることを理解しているため、基本的に異動をおこなわないようにしている。職員間の仲が良く、職員の休みの希望に極力、応じたり、施設長など運営者、管理者も、職員の話しを良く聞くようにしており、日ごろからチームワークを大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が介護に関する講義を定期的におこなっているが、その内容をもとに職員が介護のマニュアルをまとめあげた。また、職員が介護向上委員会を立ち上げるなど、職員自ら、介護の質の向上に向けた動きが始まっている。さらに1～2ヶ月に1回、系列の事業所合同で勉強会を開催している。また外部研修にも参加し、参加できなかった方には、会議のときなどに研修を受けた職員が伝達研修をおこなっている。	○	現在、事業所全体の研修計画を作成中ということである。今後は、さらに職員一人一人の育成計画を作成し、段階に応じた育成がおこなわれていくことで、さらなる質の向上に向けた取り組みがおこなわれていくことを期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長など運営者は、同業者との交流をおこなっていく必要性を理解しており、他のグループホームとの情報交換などもおこなっている。また、研修会があれば職員を参加するよう働きかけている。また施設長が、他施設などからの依頼で認知症ケアなどに関する講義をおこなっているが、その後、講義を受講した方がホームのほうに見学に来られることも多い。	○	同系列の施設やホーム同士の交流は深まってきており、他の同業者との情報交換もおこなっている。今後、さらに外部の施設、ホームとの相互訪問等を行っていきたくて考えており、さらなるネットワーク作りが広がっていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に生活している施設などに事前に訪問したり、ホームに入居する前に、ホームの見学に来ていただき職員とも顔なじみになるようにしている。入居の説明は、家族からご本人に説明をしていただくようにしており、なるべく、ご本人が安心して、納得して入居できるよう配慮している。家族の理解を得て、ホームの生活に慣れるまでは、家族の面会を多く持っていただくようお願いしたり、事前に家族から本人の好みや嫌な事を教えていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から、手芸や歌、踊り、料理などの作り方を教えていただいている。一緒に料理をするなど、職員と入居者がともに完成を目指す中で、入居者から励ましの言葉をいただくことも多い。また、言葉遣いや物腰など、入居者自身が身につけてこられたものからも教えていただくことが多い。その都度、職員は感謝の気持ちを入居者に伝えている。	○	今後、さらに職員がゆとりの時間を持てるよう工夫し、少しでも入居者と一緒によつくりとした時間の中で、秘められた感情の表出をさせていただき、喜怒哀楽をともに共有できる取り組みを継続していきたいと考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のご自分から話すことが少ない方が多いので、人前では希望を言われないことが多い。職員から入居者の方に、昔話を聞いたりしながら、思いを語っていただく取り組みを続けている。意思疎通が困難な方は、入居者の行動や表情から思いを把握する努力をするとともに、入居者との目線を合わせることで、入居者の思いに近づく努力をしている。	○	外部評価13と同じ
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、19年9月より、職員への介護計画作成のための研修を実施し、各担当職員がアセスメントから介護計画作成、そしてご家族への説明(同意のサインをいただく)までを、介護支援専門員も支援しながら一緒に実施できるように取り組みを続けている。介護計画に関する意見が、職員からも出始めてきているが、入居者、家族、他関係者との話し合いをしながらの計画作成に関しては、今後の取り組みの中で実施していきたいと考えている。	○	今後、チームで一緒に話し合いながら介護計画を作成していくことで、より入居者主体の介護計画になっていくことが期待される。また、「地域で暮らす」という視点が、計画に盛り込まれている方とそうでない方がおられるが、散歩、ドライブ、買い物など、実際のケアの中では実践されている方も多いため、今後、意識して計画の中にその表現を盛りこんでいかれることも期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々、入居者に変化が見られたときは申し送りをおこなっており、変化の状況に関する職員間での共有はできている。また、2~3ヶ月に1回、見直しをおこなうようにしているが、まだ十分に見直しをおこなえている状況とは言い難い。今後は、担当職員も一緒に、さらに細やかにモニタリング、再アセスメントがおこなえるよう、担当職員への研修も含めて取り組みをおこなっていききたいと考えている。	○	今後、アセスメントと同様、職員研修が進んでいく中で、より現状に即した介護計画の見直しがおこなわれていくことが期待できる。入居者、家族、他関係者も含めて、いろいろな方と話しをする機会を作っていきたいとも考えており、今後、より現状に即した介護計画の作成ができていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が十分に整っており、信頼できる医師や医療機関との連携ははかれている。入居者や家族の要望に応じて、急な受診の対応や毎日のホーム内での生活の中で十分な健康管理もおこなえており、酸素が必要な方もホームでの生活ができるなど、柔軟な対応をおこなっている。各入居者に対して「昔の知人の集まりに行きたい」という願いをかなえるため職員が同行したこともある。また地域の方の避難場所となれるよう食料の準備もおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療していただいている。病状により、往診が必要な場合等は、施設長が、ご本人、家族に丁寧に説明し同意の上、往診が可能な協力病院で受療していただくようお願いする時もあるが強要はしていない。通院方法に関しての希望も聞いていたが、原則は家族も同席の上、かかりつけ医からの話を聞いていただきたいと考えているので、原則、家族も通院時に同席いただくようにしている。往診時の結果は家族にしっかりと報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設長、次長が看護師でもあり、家族などの希望に応じて終末期ケアもおこなっている。重度化した時や、終末期の意向も、入居者、家族から聞いており、協力医療機関との話し合いもできている。職員への終末期ケアに関する研修も、職員個々に実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が、入居者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、その方に応じた名前の呼び方や話し方も気をつけており、否定的な言い方はしないようにしている。入社時、職員は個人情報に関する研修を施設長より受け、誓約書にサインをするとともに、日々の現場でも、職員は意識して個人情報の取り扱いの徹底に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表せない方であっても、家族にこれまでの生活を尋ねたり、表情や態度、行動などにより、何を求めておられるのかを汲み取り、その人らしい生活になるよう支援をおこなっている。入居者一人一人のペースを大切にしていきたいと考えているが、十分に対応できないときもある。	○	1階のテラスにお連れして、気分転換をしたり、天気の良い日は散歩に出たりと、外出する機会は作っているが、入居者が個別に外出を希望したときに、できる限り、その時のお気持ちに沿うような対応をしていきたいと考えている。今後、もう一人、人員を増やして対応ができる体制を取っていく予定であり、今後のさらなる体制作りを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に料理の本を見ていただき、食べたいものを尋ねたり、下ごしらえ、味見、盛り付け、テーブル拭きなどを手伝っていただいている。おやつ(いちご大福、わらびもち等)は、職員と入居者と一緒手作りしている。また旬のものを取り入れたり、職員が釣ってきた新鮮な魚をさばいて食べたり、また彩りにも配慮し、美味しく楽しく食事ができる配慮をしている。同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重要事項説明書の入浴の部分には「週2回を基本として・・・」と言う表現になっているが、この文面には「最低、週2回」と言う意味がこめられており、時間が許す限り、毎日でも入浴は可能になっている。入居者の好みや希望を大切にしているが、希望の時に入浴できない場合は、シャワーや下半身浴をおこなうなどの対応をおこなっている。羞恥心への配慮として、個室を原則にするとともに、必要に応じて同性の職員が介助をおこなう時もある。入浴剤やゆず湯をおこなうなど、入浴を楽しむ工夫もしているが、何よりも浴室から海が見えることが最高の心地よさにつながっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間から見える海、空は、何よりの気晴らしにつながっているが、入居者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをしていただくなど日常生活の中で役割を持っていただくとともに、植物の手入れ、歌、魚釣りゲーム、大好きなあめ玉をなめるなど、その時その時のお気持ちを大切にしながら、楽しい生活となるよう取り組みを続けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた、海や馴染みの地元の店、知人の集まりなど、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。「自宅に帰りたい」という方には、ドライブがてら自宅にお連れしたり、中に入れない場合は、自宅のそばを通ったりと、なるべく入居者本位の外出ができるよう支援している。	○	今後、もっと入居者の方々の外出に対する希望を把握し、その希望に沿った外出ができるよう取り組みをしていきたいと考えている。まずは、お一人お一人の外出先の希望を把握するとともに、職員の増員をおこなっている状況なので、職員の勤務体制がさらに整っていくことで実現につながっていく予定である。外出回数が増えることで、入居者の表情も変わり、さらに言葉の数も多くなる可能性もあり、今後の取り組みに期待していきたい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時から夜20時まで開放されており鍵はかけておらず、入居者、家族の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声を掛け合い、お一人お一人の行動の確認、見守りをおこなうとともに、近所の方にも見守りや必要時の連絡のお願いをしている。また運営推進会議の時にも「何かあったら、近隣の方の応援をいただけるよう」会議のメンバーである民生委員の方より地域の方にもお願いしていただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	18年9月、火災通報装置を設置し、その使い方も含めた訓練をおこなっている。年2回実施し、職員、入居者、消防署の方が参加し、火災時、地震時と合わせて、夜間を想定しての訓練もおこなっている。運営推進会議を通して、地域の方にも災害時の協力をお願いしている。災害時、地域の方々の避難場所に使っていただけるよう、地域の方用(3人分)も含めて、食料、飲料水、寒さをしのぐための毛布、布団類などの備品を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者のお一人お一人の食事に関する好みを把握しており、盛り付けの工夫をおこなったり、味付きのごはんが食べられない方には、白ごはんを準備するなど、お好みに応じた食事が提供できるよう工夫している。食事量、飲水量も把握し、毎食、食事摂取量の記録もおこなっている。	○	現在も、献立を考える時に栄養のバランスには配慮しているが、今後は、管理栄養士との連携を取っていきたいと考えている。信頼できる栄養士と知り合いになるためにも、各関係機関や運営推進会議に参加しているメンバーの方にも相談してみたいかであろうか。入居者の方が、今後もさらにお元気に生活をしていくためにも、栄養面のアドバイスを専門家にいただけることを期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから海が眺められる最高の場所にホームがある。さらに、ホーム内でも居心地の良い空間になるよう、玄関や食卓に季節の花を飾り季節感を取り入れるよう配慮している。家族の方が、自宅で育てた花をホームに持ってきてくださる時もあり、家族からも「ここに飾ったらどうですか」など、空間作りに関する意見をいただいている。日差しに配慮したカーテンやよしずを使用しており、リビングにはソファやテレビ、テーブルを置いてくつろいでいただいている。行事のときの飾り付けが映えるよう、日頃は、壁に飾り物をせず白い壁を活かすようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族とも相談しながら、衣装ケース、座いす、家具、ぬいぐるみなど持ち込まれており、入居者にとって慣れ親しんだものに囲まれるような配慮をしている。以前の生活で使用されていたもの、自分の部屋だという見分けがつかないものを持参いただくようにしている。		